ものつくり大学日本庭園の修景手法の提案

八代研究室
00812122　青木　礼

１．はじめに

2008年ものつくり大学構内の学生会館東側に、約2000㎡の日本庭園が造られた(図-1)。完成から３年経過した現在の日本庭園は樹々が鬱蒼としており、手入れが行き届いていないため、見た目も悪く季節を問わず閉鎖的な空間となっていた(図-2)。

そこで本制作では、日本庭園を本来のコンセプトを反映した姿に復元するとともに、今後のメンテナンスの参考資料として、修景手法を記録にまとめることを目的とした。

２．日本庭園が造られた本来のコンセプト

図-1に示すように日本庭園は、枯山水と里山で構成され、学生会館寄りに枯山水を配置することで、白砂からの反射光を学生会館に取り込んでいる。里山は、全体として小高い山や樹木に囲まれ、北側から見た景色が新幹線を隠すように計画された。また落葉樹と常緑樹を混在して植栽することで、夏は日光を遮断し強い日差しから守られた空間となり、冬は日光を取り入れ開放的な空間になるよう計画されている。

日本庭園の学生会館側は紅葉する樹木が多く、秋には学生会館から華やかな紅葉と枯山水の調和を観賞出来るようになっている。また、日本庭園の植栽が密集している２軒の東屋周辺は、特に里山の雰囲気を醸し出している。全体が和風に仕上げられ、東屋を景観に溶け込ませるような配慮がうかがわれる。

シンボルツリーである枝垂桜は、入学式に満開の桜で入学生を迎える目的として植栽された。

３．作業工程

3.1 日本庭園が造られた当時の計画・コンセプトを調べ、植栽の配置を理解するために図面(図-1)と、樹木リスト表(表-1)を制作した。

3.2 コンセプトに沿った当時の姿を取り戻すために、日本庭園に植栽されている樹木を剪定し、必要以上に増えてしまった竹藪を伐採した。この竹を利用し、竹垣を制作した(図-3～5)。

3.3修景手法や樹木の特徴などの詳細を、樹木カルテにまとめた(図-6)。

４．竹垣の制作

龍安寺垣(図-3)と鉄砲垣(図-4)の２種類を２ヶ所に制作した。龍安寺垣は、東側東屋のアプローチの起点に配置した。これは空間の仕切りを目的とするものであるが背後が透けて見えることが特徴である。また鉄砲垣は、本来目隠しが目的の竹垣であるが、東側東屋に付設する蹲の脇に配置し、蹲の存在感をアピールするために袖垣とした。

５．樹木カルテ

修景作業の記録として、日本庭園に植栽されている樹木の特徴や剪定方法、剪定時期などを解説した全29種の樹木カルテを樹木ごとにまとめた(図-6)。

本制作の中でも、樹木剪定はとくに手間がかかり、ゴヨウマツ(No.13)、ダイスギ(No.15)の剪定が非常に難しく、最も剪定に力を入れた(図-6)。

６．おわりに

手入れをする前の日本庭園は、人の出入りが殆ど無かったが、本制作を終えて、東屋で休む人や、作業中に声をかけてくれる人もいた。少しでも多くの人に興味や関心を持ってもらうことができた。樹木カルテを参考とし、今後もランドスケープ研究会に維持管理を行なってもらいたい。

【謝辞】

本制作を行うにあたりご指導をして頂いた宮島秀夫先生、宮島清親方、卒業生を含むランドスケープ研究会一同の皆様にこの場を借りて深く御礼申し上げます。

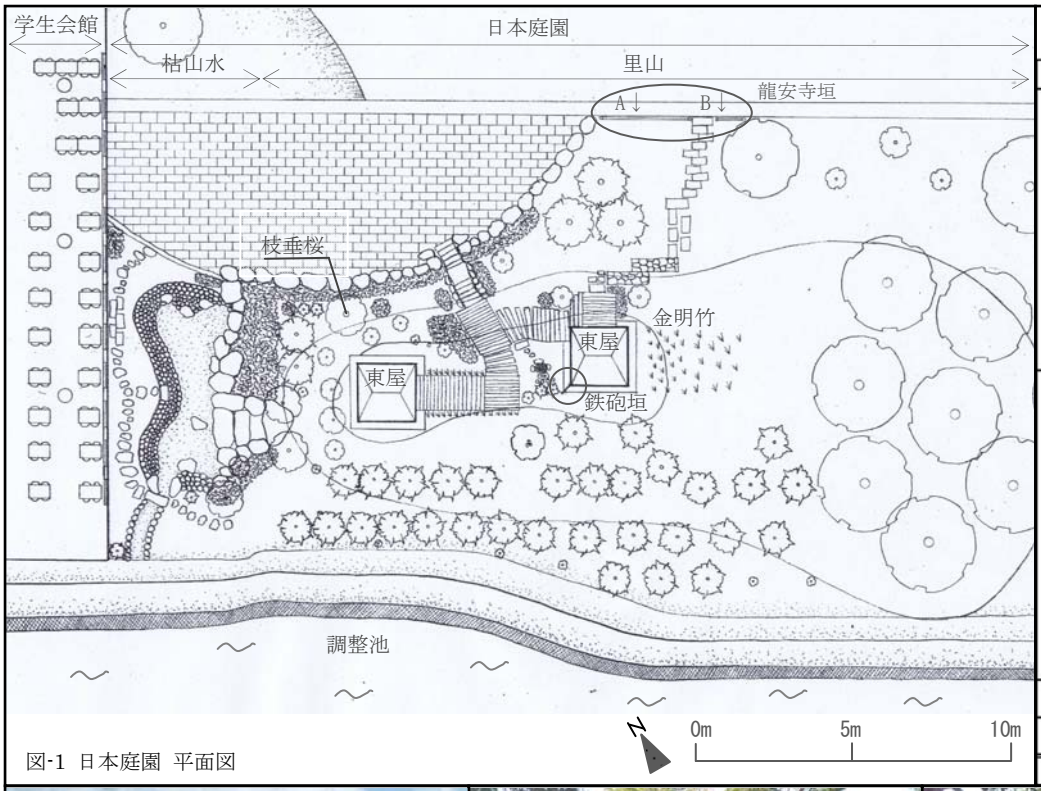

図-1 日本庭園 平面図

表-1 樹木リスト表

樹種		No.	樹名	数量	手入れ	カルテ
常緑樹	広葉樹	1	オオムラサキツツジ	12㎡	○	
		2	オトメツバキ	1本	○	○
		3	カンツバキ	2又	○	○
		4	カンツバキ	3又	○	○
		5	キンモクセイ	1本	○	○
		6	サツキ	22㎡	○	○
		7	ヒイラギナンテン	13株	○	○
		8	ボックスウッド	2㎡	○	○
		9	ヤエクチナシ	21株	○	○
	針葉樹	10	アカマツ	5本	○	○
		11	キャラボク	1株	○	○
		12	コノテガシワ	1株	○	
		13	ゴヨウマツ	1本	○	○
		14	サワラ	24本	○	○
		15	ダイスギ	2本	○	○
落葉樹	広葉樹	16	アカシデ	1本	○	○
		17	エゴノキ	3又		○
		18	ガマズミ	1株	○	○
		19	クマシデ	1本	○	
		20	シダレザクラ	1本	○	○
		21	ドウダンツツジ	1株	○	○
		22	ナツツバキ	2又	○	○
		23	ニシキギ	4株	○	○
		24	ノムラモミジ	1本	○	○
		25	ノムラモミジ	3又	○	○
		26	ハナミズキ	1本	○	○
		27	ベニシダレモミジ	1本	○	
		28	マユミ	1株	○	○
		29	ヤマモミジ	4本	○	○
	針葉樹	30	メタセコイア	9本	○	○
竹		31	キンメイチク	28本	○	
		32	ダイミョウチク	11株	○	○
下草		33	フッキソウ			○
		34	マンネングサ			
合計					31種	29種

図-2 日本庭園 施工前　2011/10/6

図-3 龍安寺垣(A:2.5m×0.8m B:1m×0.8m)

図-4 鉄砲垣(0.9m×1.8m)

図-5 日本庭園 施工後 完成写真　2011/11/29

ゴヨウマツ(五葉松)

マツ科 マツ属 中度樹
別名:ヒメコマツ、キタゴヨウマツ

特徴　樹形は傘状。他のマツよりも日陰と乾燥に耐え、土壌は水はけのよい肥沃な砂質土を好む。成長はかなり遅いが剪定に耐える。潮害にやや強く、煙害にはやや弱い。

用途　仕立てたものを和風の庭の主木、門冠りなどの役木に用いる。

移植・移植　適期は2～3月中旬で、移植はやや難しい。他の樹木と枝が接すると枝枯れを起こしやすいので注意したい。

管理　剪定・整枝の適期は1～2月、4月、10～12月だが、5月が最も良い。

図-6 樹木カルテの事例